

学校評価計画

下山小学校

1、学校評価（自己評価及び学校関係者評価について）の目的

《自己評価》

下山小学校の教育活動及び学校運営について、目指すべき目標を設定し、その達成状況や達成に向けた取組の適切さについて保護者、児童、地域からの情報を集め、校内で教職員自らが分析・評価することにより、学校として組織的・継続的な改善を図ることを目的とする。

《学校関係者評価》

下山小学校の自己評価をもとに教職員以外の学校関係者による評価を実施し、その結果の公表・説明により適切に説明責任を果たすと共に、保護者・地域住民から理解と参画を得て、学校・家庭・地域の連携、協力による学校づくりを推進することを目的とする。

2、学校評価（自己評価及び学校関係者評価について）の校内体制と組織

学校評価委員会 《学校評価委員会》 ○全教職員（職員会）	評価依頼	学校関係者評価委員会 ※学校による自己評価を評価
	意見・提言・評価	《学校関係者評価委員》 ○地域代表 ○保護者代表 ○学校責任者（校長）
	【説明責任】	

3、学校評価委員会及び学校関係者委員会の構成

◇学校評価委員会（4名：職員会：検討委員会の原案を協議）

◇学校関係者評価委員会（4名：学校評価委員・・・地域代表、

PTA 会長及び副会長、民生児童委員代表

4、自己評価書作成手順

「学校評価」のみならず、「教育活動は、よく言われる「P-D-C-A サイクル」の円環運動が恒常化して、教育効果が螺旋状に向上することが期待され実践されなければならない。そのためには、教職員がベクトルを合わせ、一体となって取り組める組織づくり、評価指標の立案、評価の在り方、評価結果の考察と説明責任、今後の方向性の共通理解が一連の流れの中で位置づくことが肝要である。本校は小規模校のため、校長が一連の具体的な流れに添ってその都度、原案作成・提案、そして学校評価の実施及び集計を行い、その結果を学校評価委員会として位置づけた職員会で検討・分析し自己評価を行っている。

5、年間スケジュール(自己評価及び学校関係者評価)

自己評価のスケジュール	学校関係者評価のスケジュール
<p><u>4月</u> 自己評価の評価項目の設定、取組状況を把握するための指標の設定。〔職員会〕</p> <p>市教委への説明</p> <p><u>9月</u> 中間での達成状況や取組状況を把握、整理する。〔職員会〕</p> <p><u>12月</u> 児童・保護者・地域住民に対するアンケートの実施、集計、まとめ</p> <p><u>1月</u> 自己評価の実施〔アンケートまとめを活用〕職員会</p> <p><u>2月</u> 地教委へ学校評価書を提出 市教委への説明</p>	<p><u>5月</u> 学校関係者評価委員会の開催 本年度の評価項目についての説明・協議 組織づくり</p> <div data-bbox="890 633 1232 815" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・地域代表 1名 ・民生児童委員 1名 ・PTA会長 ・PTA副会長 </div> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>参観日 学校行事等への案内 来校時に懇談して意見交換</p> <p><u>2月上旬</u> 学校関係者評価委員会の実施 自己評価書の結果説明及び関係者による評価と改善策について</p>
<p><u>2月</u> 自己評価・学校関係者評価の評価結果の公表 〔学校だよりで保護者や地域住民に提供する〕</p>	

令和6年度 学校評価 自己評価書(一覧)

学校教育目標 かしこく なかよく たくましく

(4段階評価 A:十分達成できた B:ほぼ達成できた C:やや不十分 D:改善を要する)

安芸市立下山小学校

項目	中長期経営目標	短期経営目標	評価項目	評価基準	達成状況	自己評価	改善方策	関係者評価講評	関係者評価
教育課程・学習指導	○ 学力の定着、体力の向上を図る ○ 豊かな表現力を育成する	① 個別の学習課題への指導を徹底する。 ② 運動の習慣化を図り、身体を動かす喜びや楽しさが体感できる取り組みを推進する。	① 児童一人ひとりの学力定着への手だてを定期的(学期2回)に交流していく。 ② 朝の休めざめタイム(月・火・木・金)を実施して多様な運動で鍛える。 ③ 15分休み、昼休み、放課後の外遊びを刺激していく。 ④ 泳力向上に向けて指導を加速していく。	① 手だてにそった学力定着への取り組みの実践交流〔レポート〕を行い、成果と課題、新たな手だてを共有できている。 ② 外遊びが活発になり、挑戦的な内容が増えている。 ③ 10分間遠泳での距離がのびている。					
		① 小・小連携や交流を進める。 ② 文章表現、言語表現をする場を多く設定する。	① 伊尾木小での授業交流、交流活動をそれぞれの視点で行う。 ② 音読朝会、読書の取り組みに共通理解を図りながら進めていく。	① 他校児童との交流が刺激となり、伸びようという気持ちや行動が表れる。 ② 自己表現が豊かになり、自信を持って活動することが増えてくる。					
研修	○ 教職員の資質・指導力の向上を図る	① 少人数学級における効率的な学習指導法や授業の工夫について研究を進め、授業の活性化を図る。	① 一人学びの各学年に応じた学習ルールや学習の進め方を実践していく。 ② 複式授業研を2学級で実施する。他校での授業研へも参加できるよう調整していく。 ③ 授業づくりを工夫して、児童の学ぶ意欲や楽しさを引き出していく。	① 効果的な学習指導等について報告して共有し、実践に取り入れることができる。 ② 授業が活発になり、児童の学ぶ意欲や楽しさが向上させる。					
		② 表現力育成の研究授業を行う。	② 市教育研究所の支援を積極的に活用して、児童の成長や課題を確認する。	② 児童一人ひとりの表現力の伸びを確かめる。					
保護者地域との連携	○ 保護者・地域に愛され、信頼される学校づくり	① 学校の情報を積極的に発信するとともに、保護者や地域の情報の受信に努める。	① 学校だより、ふれあい新聞(2回)を活用して情報を発信し、地域との交流を深める糸口とする。 ② あったかふれあいセンターと連携して、地域の高齢者との交流を広げていく。(3回)	① 更に情報発信や受信を工夫して広報活動を広げていく。 ② 高齢者との交流がお互いに楽しくなるように児童が主体となって計画していく。					
		② 地域の学校としての視点で特色ある学校づくりを推進する。	② 地域に出向いての活動を計画していく。 ③ 夕涼み会やふれあい祭り(学習発表会)、運動会などを通して、地域・保護者・学校とのつながりを深めていく。	③ 地域に出て活動することができる。 ④ 開かれた学校推進委員と一層の連携をして、行事等への参加者を増やすことができる。					
安全管理	○ 危機管理意識を保持し、児童の生命と尊厳を守る。 ○ 自らの生命を守ることができる児童を育てる。	① 様々な危機に対応した訓練を実施して、マニュアルの見直し、確認に努める。	① 地震発生時の時間帯を変えて(昼休み時間、下校中など)の避難訓練を実施する。 ② 市の一斉訓練に参加して、災害時の備蓄品の周知や操作などを保護者や地域の方と確認しあう。	① 訓練する中で、指示と行動が実際的なものになるように見直していく。 ② 自主防災組織に指導してもらった地域の避難訓練に保護者、児童が全員参加する。					
		② 教職員及び児童の安全対応能力の向上を図る。	② 火災時の避難訓練、交通安全教室、自転車安全運転指導、防犯教室を実施し、児童・教職員の安全への対応能力の向上を図る。 ③ 防災の授業を計画的に進める。	③ 関係機関と連携して、早い時期に安全指導等を実施する。 ④ 避難訓練の実施前後にあわせて防災の授業が実施する。					
健康管理	○ 自分の身体に関心を持ち、健康について考える子どもを育てる。	生活がんばりカードへの取り組みを通して、自分の健康について自己管理できる能力を育てる。	生活がんばりカードを毎月実施して、自分のチャレンジ目標、学校からの設定目標を意識させた取り組みにしていく。	○ 自分の生活課題を意識した取り組みができているか、毎日全教職員が把握して声がけをする。 ○ 毎月の評価と保護者への協力要請を継続していく。					